

遊び方 詳細

百人一首の札 100 首は、上の句（人の絵が入っている札）の初めの数文字が詠まれただけで、どの取札（畳に並べる字だけの札）なのかが決まります。
この決めてとなる数文字を決まり字といいます。

決まり字の数文字を暗記しておけば、上の句をわずかに聞いただけで、取札を取ることが出来ます。

決まり字の文字数は、短いものから【一字決まり（7 句）】【二字決まり（42 句）】【三字決まり（37 句）】【四字決まり（6 句）】【五字決まり（2 句）】【六字決まり（6 句）】あります。

また、百人一首の面白い特徴として対戦が進むにつれ、決まり字も変化します。

本商品の中の赤グループから例を上げてみます。

対戦が始まる前に場に出ていた『ひ』で始まる札が 3 枚あったとします。

033 ひさかたの ひかりのどけき はるのひに しづころなく はなのちるらむ
035 ひとはいさ こころもしらず ふるさとは はなぞむかしの かににほひける
099 ひとつをし ひとつうらめし あぢきなく よをおもふゆゑに ものおもふみは

つまり決まり字は『ひさ』『ひとは』『ひとつ』です。

試合の中で『ひとは』が詠まれて場から無くなると、『ひさ』『ひとつ』だけとなります。
後は、2 文字までを聞き分ければ、取る事が出来ます。

そして、『ひとつ』が詠まれた場合、『ひ』で始まる和歌は『ひさ』一つになる為、『ひ』を聞けば取ることが出来ます。

本商品は、一般社団法人全日本かるた協会 元クイーンの監修の元、【きまり字】の特徴を 5 段階の色分けで順番に覚える事で、本来の競技かるたの覚え方が崩れる事なく身に付きます。

後に本格的に競技かるたを始める時も、憶えた決まり字がそのまま役に立つ百人一首です。

難易度 5 段階に各 20 枚ずつに分けられており『赤グループ』⇒『青グループ』⇒『黄グループ』⇒『紫グループ』⇒『緑グループ』とステップアップしていく遊び方です。

最初の赤グループには、一音で聞き分けられる【一字決まり】が4文字含まれ、2字から変化する決まり字に慣れる為、2字決まりが12枚含まれています。

さらに、前述の『ひ』で始まる札と同じく、試合の進行で決まり字が変化する『ち』で始まる札を織り交ぜた、計20枚で構成されています。

『赤グループ』で慣れた方は、次の難易度『青グループ』20枚で練習してみてください。

最終的に最高難度のグループである『緑グループ』は、聞き分けが難しい『あ』(16枚)と『は』(4枚)で始まる札で構成されています。

『あ』と『は』は母音が同じで、口の開け方が似ている為、読手の詠み方(抑揚やクセなど)に注意して聞かないと間違いやすい札です。

全ての札で慣れた人は、仲間同志で一緒に対戦してみましょう。

読手も5人、選手10人(2人対戦)に分かれて、5チームの試合が出来ます。

是非、お楽しみ下さい。